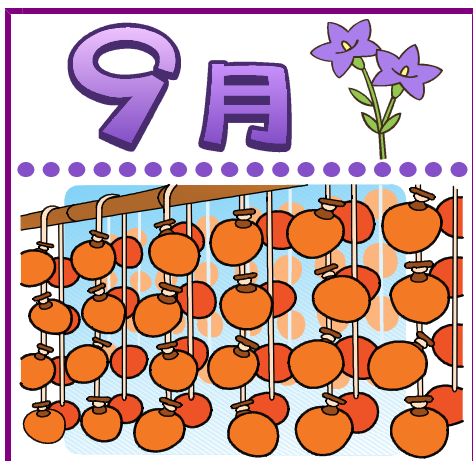


# めぐみイエス・キリスト教会

2022年9月18日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第626号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【交読文】 No.23 詩篇第66篇 p. 897

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主と共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き19章23節～31節

【礼拝説教】 《銀細工人デメテリオ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※聖書箇所 使徒の働き19章23節～31節(新約p. 274下段)

19:23 そのころ、この道のこと、大変な騒ぎが起こった。

19:24 デメテリオという名の銀細工人がいて、銀でアルテミス神殿の模型を造り、職人たちにかかなりの収入を得させていたが、

19:25 その職人たちや同業の者たちを集めて、こう言ったのである。「皆さん。ご承知のとおり、私たちが繁盛しているのはこの仕事のおかげです。

19:26 ところが、見聞きしているように、あのパウロが、手で造った物は神ではないと言って、エペソだけでなく、アジアのほぼ全域にわたって、大勢の人々を説き伏せ、迷わせてしまいました。

19:27 これでは、私たちの仕事の評判が悪くなる恐れがあるばかりか

偉大な女神アルテミスの神殿も軽んじられ、全アジア、全世界が拝むこの女神のご威光さえも失われそうです。」

19:28 これを聞くと彼らは激しく怒り、「偉大なるかな、エペソ人のアルテミス」と叫び始めた。

19:29 そして町中が大混乱に陥り、人々はパウロの同行者である、マケドニア人ガイオとアリストアルコを捕らえ、一団となって劇場になだれ込んだ。

19:30 パウロはその集まった会衆の中に入って行こうとしたが、弟子たちがそうさせなかった。

19:31 パウロの友人でアジア州の高官であった人たちも、パウロに使いを送り、劇場に入って行かないようにと懇願した。

## ●ポイント1. 「デメテリオ」とは？

■**デメテリオ** エペソの銀細工人で、大女神アルテミスの神殿の模型を銀で作し、職人たちにはかなりの収入を得させていた。しかし、パウロが手で作った物は神ではないと言ったのを聞き、職人たちや仲間を扇動して、パウロの同行者を捕え、劇場へなだれ込んだ。

使徒ヨハネによる第Ⅲの手紙において、皆からも、真理そのものからも証言されているとして推薦されている人物である。

エペソのデメテリオとは別人という説もあるが、同一人物と見なす者もいる。使徒ヨハネは、晩年はエペソの長老であったから、間違いなく、後に改心し、主にある兄弟となった「銀細工人デメテリオ」であると思われる。そうでなければ、ルカはあえて「使徒の働き」に、その名を記載する必要もなく、使徒ヨハネも証しすることはないからである。

## ※ヨハネの手紙第Ⅲ1章12節「ガイオへの手紙」(新約p.487下段)

1:12 デメテリオについては、すべての人たちが、また真理そのものが証ししています。私たちも証しします。私たちの証しが真実であることは、あなたも知っています。

## ●ポイント2.「アルテミス」とは？

■アルテミス ラテン名はディアナ。ギリシヤ神話のゼウス神の娘で、アポロンとふたごの姉妹である。この女神は、狩猟の女神、出産と肥沃の守護者であり、純潔と処女性の象徴として崇拝されていた。エペソのアルテミスは、イエス・キリストの福音が最初に伝えられた頃、「全アジア、全世界の拝むこの大女神のご威光」と叫ばれるほど繁栄し、当時の世界30箇所以上で礼拝が行われていたことが明らかにされている。その神殿は古代七不思議の一つとされている。紀元前6世紀に着工され、約200年の歳月をかけて完成した。その後火災によって焼失したが、再建された神殿が発掘されてその全貌が明らかになった。その広大さは、アテネのパルテノン神殿の4倍大で、敷地の上に13階段を経て上る神殿は奥行103メートル、間口43メートルの広さであり、そこには直径1.8メートルの大理石円柱が100本立てられ、そのうち36本には高さ3メートルの所まで等身大の女人群像が浮彫りにされている。アルテミスの像は、その神殿の中にある内殿に安置されていた。「天から下ったそのご神体」という表現から、黒い隕石を刻んで造ったものであらうと思われる。毎年アルテミスの月（太陽暦の3月～4月）に行なわれる祭はきわめて官能的で、神殿売春を伴っていた。そこには、多くの参拝者や観光客が訪れ、莫大な富をもたらしていた。また、アルテミスの神殿の存在によって巨大な収益を得ていた多くの集団がエペソに存在していた。その中には神殿の模型を大理石製、焼き物製、銀製などで作って参拝する人たちに売っていた人々がいた。ことに銀細工人組合は銀製の神殿模型の上にすえられた女神アルテミスの銀の像を製作し莫大な利益を得ていた。イエス・キリストの福音が使徒パウロによってこのエペソに伝えられた時、当然この偶像産業社会との衝突が起こった。銀細工人デメテリオが同業者たちを扇動して暴動を引き起こした。一時エペソの町はパニック状態になったが、エペソの書記役が公平中立的に群衆の興奮を静めることに成功して、パウロたちは難を免れた。

### ●ポイント3. 「ガイオ」と「アリストアルコ」とは？

#### ※使徒の働き20章4節～5節「エペソとコリント間の往復」(新約p.276)

20:4 彼に同行していたのは、ピロの子であるベレア人ソパテロ、テサロニケ人のアリストアルコとセクンド、デルベ人のガイオ、テモテ、アジア人のティキコとトロフィモであった。

20:5 この人たちは先に行って、トロアスで私たちを待っていた。

■**ガイオ** ラテン語による名前で、エペソでの騒乱の際、アリストアルコと共に捕えられたマケドニヤ人。エルサレムに向かうパウロに同行し、トロアスでパウロが来るのを待っていた一団の一人。デルベ人とあるが、西方本文の読み方が正しければ、マケドニヤ人ということになり、同一人物であった可能性が高い。

■**アリストアルコ** テサロニケのマケドニヤ人。パウロの同労者で、エペソでデメテリオの騒乱にあい、捕えられた。パウロがエルサレムに上る時も、テサロニケ教会の代表として献金を携えて同行する。カイザリヤからローマに船出する時にも、パウロに付き添っている。

コロサイ人への手紙に、「私と一緒に囚人となっているアリストアルコ」とあることから、彼がローマにおいて監禁されていたことは間違いないと言える。

#### ※コロサイ人への手紙1章12節「紀元61年頃ローマ」(新約p.406下段)

4:10 私と共に囚人となっているアリストアルコと、バルナバのいところであるマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もし彼があなたがたの所に行ったら迎え入れるように、という指示をあなたがたはすでに受けています。

## ◎先週の礼拝メッセージ【コリント教会の問題】

《エペソにおけるパウロの伝道は、約三年にもおよびます。しかし、その間に「第2回伝道旅行」の時に、一年半、腰を据えた「コリント教会」の悪いわさが流れて来たのです。それは、「不品行」の問題でした。

パウロは、テトスを遣わし、コリント教会に手紙を送ります。それが「きびしい手紙」と言われたものです。その返事として、教会はパウロに質問状を出したのです。その質問状に対する答えが、第Ⅰコリントとなります。その手紙を、弟子テモテとエラストの二人に託します。

その後、パウロは一度船にてコリントに赴いた可能性があります。そして、教会を指導し、再びエペソに戻って来ましたが、コリント教会の問題は依然解決せず、「悲しみの手紙」をテトスに託して送ります。

その次に書かれたのが、第Ⅱコリントなのです。パウロは、コリント教会に対して四通の手紙を書きました。しかし、一通目の「きびしい手紙」と、三通目の「悲しみの手紙」は失われてしまったのです。

この背景には、主の御心が働かれたのではないかと思われまます。新約聖書は聖霊様を通して書かれたものですが、必要なものは、たとえ何があっても残りますし、また、不必要なものは残らないのです。

これは私たちの働きについても言えるかも知れません。主イエス様から見て、私たち一人一人に必要なものは、必ず残され、それが取り去られることはありません。しかし、その反対に、不必要なものは、どんなに私たちが残そうと思ったとしても、取り去られることとなります。

失われた二通の手紙は、もしかしたら、コリント教会の兄弟姉妹たちに慰めと希望を与えることが出来なかったのかも知れません。しかし、第Ⅱコリントにおいては、帰還したテトスの報告を受け、ついにコリント教会がパウロの導きと勧めに従い、健全な状態を取り戻した事が描かれています。二通の手紙が残された事は感謝な事です。》

### お知らせ

※9月25日(日)の第四主日礼拝は、午前10時からとなります。鈴木師は、9月19日(月)JTJ30周年記念礼拝にスタッフとして奉仕予定です。